

<会員による自著紹介> * 紹介者である会員

大学のFD Q&A

佐藤浩章¹⁾・中井俊樹²⁾・
小島佐恵子³⁾・城間祥子⁴⁾・
杉谷祐美子⁵⁾* (編著)

1) 大阪大学・2) 愛媛大学・
3) 玉川大学・4) 上越教育大学・
5) 青山学院大学

玉川大学出版部 (2016年発行)
定価 2,000円 (税別)



本学会誌が発行される2017年は、FDが大学の学士課程レベルに義務付けられてから、ちょうど10年にあたる。この間、大学教育の改善や質の向上を求める動きは勢いを増し、いまや、「FD=Faculty Development」と説明するまでもなく、大学の教職員に浸透している。

しかし、実際にFD活動を企画する場合、学生による授業評価、教員間の授業参観、講演会やワークショップなど、さしあたり思いつくものはあろうが、どうしたらそれらを効果的に進めることができるか。学内の人々に関心を持ってもらい、日常の教育活動で活用してもらうにはどうしたらよいか。いざFDを担当する立場になると、こうした悩みを抱える方は少なくないだろう。

本書は、そうしたFD担当者を主な対象として、FDの進め方のノウハウや留意点を満載したハンドブックである。「FD担当者」とは教育改善の組織に専門的に従事する人ばかりでなく、全学や学部の委員としてFDに関与する教員、さらには職員をも含む。このような様々な立場の人にできるだけわかりやすく、すぐにでも実践に役立ててもらえるように配慮した点に特色がある。

本書は、7つの指針と5つのステップによってFDを進める上での基本的な考え方を解説した「第1部 FDの実践のための指針」、100のQ&Aで現場の悩みに簡潔に答える「第2部 Q&A形式で学ぶFD」、研修実施要項やアンケート等の例、FDに関する法令や年表、情報源となるウェブサイトや文献等を紹介した「第3部 資料」から構成されている。総勢37名の多彩な執筆者によるFD研究の知見と豊富な経験に基づき、現場での苦労も含めてリアリティ感覚を大切に書いた書である。それゆえ、本書を手にとる読者は決して気負うことなく、各自の組織や職務の状況に応じて取捨選択し、必要な部分、できる範囲のことを試みるなど、気軽に活用していただきたいと思う。

奇しくも、FDの義務化と本学会の設立とは歩みを同じくしている。初年次教育を充実発展させるためにも教員間の連携およびFDは不可欠である。少しでも本書が役立つならば幸いである。